

京都府知事に対する合同提言活動

道路や港湾の整備は、その地域産業を支えるだけでなく、民生・防災上の観点からも、最も基本的な「都市基盤の整備」であります。このため、8月6日に京都府庁にて山崎知事を訪ね、齊藤市長・和佐谷議長・上西会頭の三者による合同提言活動を行いました。

また、7月1日には、独立行政法人「雇用・能力開発機構」の存廃が検討されているなかで、京都職業能力短期大学校（ポリテクカレッジ京都）の存続について、三者合同の要望活動を行っています。

提言の趣旨・内容は、次のとおりであります。

1. 高速道路及び一般国道27号線西舞鶴道路の整備について

本市は、ヒト・モノ・情報が交流するまちづくりに取り組んでおり、とりわけ舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道の全線開通は、丹後・若狭地域と関西・中京都市圏との結びつきを深め、北近畿全体の経済・産業の活性化に大きく貢献することから本市の発展には欠かせない。

また、大災害時の迂回道路・緊急避難道路となる高速道路や■道の整備は、近畿■にとっても極めて重要である。

(提言項目)

- ①舞鶴若狭自動車道の整備促進（小浜西～敦賀間の早期完成、福知山～舞鶴西間の4車線化）
- ②京都縦貫自動車道の整備促進（丹波綾部道路の早期完成、京都第二外環状道路の早期全線完成）
- ③■道27号バイパス西舞鶴道路の整備推進
- ④高規格幹線道路及び主要■道の整備を着実に推進
- ⑤真に必要なとしている道路整備を計画的かつ着実に進めるための財源を確保
- ⑥21年度予算の概算請求においては所要の道路建設予算を確保

2. 京都舞鶴港の振興・整備について

多目的国際ターミナル和■埠頭とアクセス臨港道路の22年春の供用開始を控え、また、京都縦貫自動車道や舞鶴若狭自動車道などの高速道路網が26年度中に全線開通が期待される今、地方港として京都舞鶴港が進展を遂げるためには、近畿■の日本

海側で唯一の重要港湾として、北東アジア地域との地理的優位性を活かす取り組みが重要である。

したがって、北東アジア地域との連携・交流を強化するなどの長期的展望も踏まえた港の振興・整備を進める必要がある。

(提言項目)

- ①和■地区多目的国際ターミナルとアクセス臨港道路の整備による国際物流の競争力強化
- ②複合一貫輸送機能の増強による物流コストの削減（東港の機能強化）
- ③国際フェリー航路就航への対応強化
- ④静脈物流拠点としての機能増進
- ⑤既存埠頭の有効活用（平・大波下埠頭における企業立地促進）
- ⑥エネルギー基地としての機能拡充
- ⑦魅力あるウォーターフロントの整備
- ⑧利用者ニーズに基づいた、使いやすく、活力ある港の振興
- ⑨港湾背後地への企業立地を促進（支援措置の充実）
- ⑩有効活用促進のため、臨港地区の土地利用計画の見直し

これに対し、山崎知事からは、「舞鶴は、府北部の要として、これまで■・府とも頑張ってきた。これを無駄にせず、舞鶴のためだけでなく京都府のためにもやっていく。」との発言がありました。

3. 京都職業能力短期大学校（ポリテクカレッジ京都）の存続について

独立行政法人「雇用・能力開発機構」の見直しに当たっては、地域の状況を考慮し、長期低迷する地域経済を再生する中小企業への技術支援や人材供給源、ものづくり分野における若年者の人材育成のためにも同校の存続が必要である。

(要望趣旨)

ポリテクカレッジ京都は府北部では代替のない職業能力開発機関であり、中小企業へ即戦力となるものづくり人材を送り出しており、企業にも高く評価され、厳しい状況下にある地域産業の振興に寄与している。存続が見直しとなれば、企業誘致の推進や既存企業の振興など地域産業や雇用に多大な影響が発生しひいてはまちづくりにも影響を及ぼす懸念がある。ついては、同校の存続について■に対し強く要望していただくようお願いする。

京都府商工会議所連合会立石会長が来鶴懇談

8月5日、京都府商工会議所連合会立石会長、麻生京都府副知事、茶畑京都府参与他が来所、当所正副会頭と京都舞鶴港の振興について懇談しました。

懇談は当所瀬川専務理事が進行し、当所上西会頭の「京都舞鶴港はアジアの成長により日本海側の玄関■として注目を浴びるとともに、天然ガスの燃料基地構想などもあり、地元としては、港の振興に積極的に取り組んでいくのでぜひ協力願いたい。」との歓迎挨拶で始まりました。立石会長からは「京都舞鶴港は、中■、ロシアなどの成長ダイナミズムをどう取り込んでいくか、また観光客の誘導なども含めて、日本海側の注目すべき港湾のひとつであり、現場を実際に見ることでいろいろな勉強していきたい。」との挨拶がありました。また、麻生京都府副知事からは「京都舞鶴港は京都府の北の拠点であり、平成22年には国際ターミナルとして和■埠頭が供用開始となる。航路の安定化、集荷の問題、企業誘致、また、市街地の賑わい・活性化など、課題はたくさんあるが、経済界と行政が一緒になって解決していきたい。」



左から立石会長、麻生副知事、茶畑参与

天然ガスの備蓄基地は西日本日本海側にはない。金沢港や境港など他港との連携も必要である。今後も北部の活性化について尽力願いたい。」との挨拶をいただき、舞鶴港の現状と今後の取り組みについて説明をいただきました。

懇談では、人的交流の必要性、ロシアや韓■との新規航路開拓、新しい顧客創造、見える化戦略、環境問題なども含め舞鶴港のメリットの提供、日本とアジアの水平分業生産に対するソリューション提案の必要性等々について活発な意見交換が行われました。

当所■中副会頭が「京都舞鶴港が日本海側の重要港湾として北東アジアとの地理的優位性を持っていることが十分にご理解いただけたと思う。神戸港や大阪港に加えて小回りのきく京都舞鶴港が日本海側の拠点となるよう育成・支援してほしい。最近、■や関経連などでは、国際物流戦略チームを構成し、日本海側ルートにも関心を示されているが、京都経済界にもぜひご支援願いたい。」と懇談を締めくくられました。



五老ヶ岳から舞鶴湾を展望

懇談会終了後、五老ヶ岳スカイタワーから舞鶴港を展望の後、西港から京都府の船「みずなぎ」で湾内見学を実施、16:30全日程を終了しました。